

1. 保育の計画（R7年度）

評価・反省

- ・子どもの発達や興味に基づいて、環境構成や日々の保育を考える事が出来た。
 - ・公開保育等で自分の保育を見てもらい評価、反省出来る機会を作ることが出来なかった。
 - ・保育室内や廊下等の清掃が行き届いていない所もあり、自分自身が気付くのも遅かった。
子ども達が全力で遊び込むことが出来る環境を作る為に、自分が一番に気付き行動出来ると良かった。
 - ・遊びがマンネリ化しないようその時の子ども達に合った教材提供が不十分であったと思う。
二人担任で主を交互に行うことで、保育を見せ合うことが出来た。
 - ・幼稚園教育要領で分からない部分がある。
クラスのペアとは話し合いはするが、学年間ではしない事がある。
 - ・子ども達が自然物や環境と関わり、好奇心を抱きその性質に関心をもって調べたり観察したりする場面が多くみられた。
戸外遊びの充実、メダカ・カブト虫の飼育はよかった。
 - ・子ども達の興味や関心を知り、楽しんで遊ぶことが出来るよう意識した。
より他のクラスとコミュニケーションを大切にしたい。
 - ・自由遊びが固定されがちだった。（ままごと、ぬりえ、ブロック）
 - ・今までの指導計画・固定概念にとらわれず、新しいものを取り入れようと学年でも話し合い実践出来た。
しかし、互いや他の学年の保育を見せ合う機会が少なかった。
 - ・新しい活動にたくさん挑戦し、都度反省して次の目標を立てた。
 - ・カリキュラムを基に年長児の身体的成長、心理的社会的成長が最大限育まれるよう、保育時間内で細かく分けて構成しテンポよく活動を進めることが出来た。
- （お助けマン）
- ・短い時間ではあるが、保育に入ることも多いので、保育をどのようにしていくか（短時間でも）考えながら入ることが出来たと思う。
 - ・環境や保育計画に携わることが殆ど皆無だった。
 - ・カリキュラム作りには直接関ることが無い為、保育や環境構成はそのまま受け入れる形になりがちだった。
 - ・担任と放課後に一日の子ども達の様子や保育内容など、互いに伝達、話し合いをすることが出来た。
自由遊びの内容がマンネリ化しがちであった事を次年度は改善していきたい。
 - ・個々に寄り添った保育を心掛けた。
 - ・環境構成で子ども達が遊び込めるよう、危険が無いようその都度職員間で話し合い臨機応変に整えることができた。
預かり保育では子ども達が気持ちよく遊び始めることが出来るよう、始めと終わりには整理整頓に努め子ども達にも片付け方を呼びかけた。
季節に合わせた素材を用意し長い時間の保育でも安心して遊べる環境づくりに配慮した。
 - ・子ども達の姿から、安全面に配慮して環境を見直すことは出来ているが、マンネリ化しないような変化がもう少しあっても良かったと思った。
 - ・園内の絵本や飾りなどは季節、月を意識して変えることが出来た。

反省を基に来年度実行・改善すること

- ・毎日の保育を振り返り、反省を活かして次の保育をより良いものにしていく。
- ・学年、クラス間の交流を多くすることで他の保育者から見て学んだり評価を受けられる環境を作る。
- ・保育が始まる前に保育室内の環境は子ども達にとってどうかを考え、整えてから1日を始められるようにする。
- ・季節にあった遊びや子ども達の興味に合わせて教材を作り、遊びとして提供する。
- ・幼稚園教育要領を再度見直し、自分の知識として生かしていきたい。
週末、月末は子ども達の話題もふまえ話し合いの機会を設ける。
- ・学年ごとに行う活動（和太鼓・よさこいソーランなど）例年の繰り返しでなく、活動の機会を増やしたい。
異年齢交流の方法と回数を増やしたい。
- ・自分の保育の見直しをしたり、研修などの学びを取り入れたり、保育を見せ合う中でより良い保育の計画をし実践する。
- ・計画的に保育を行えたが、子どもの姿よりカリキュラム通りに進めてしまう時もあったため、常に子どものやりたいことを一番に保育したい。
- ・年長児独自の活動では、当日まで分からないこと（実際の動きや保育者の配慮点）が不明瞭なこともあり活動後に「もっとこうの方が良かった」とやってみてわかる事、反省点がでてきた。次回取組む時にはよりスムーズに進められるよう、対応、準備していきたい。

(お助けマン)

- ・それぞれのクラスがどんな保育の計画を立てていて、実践しているか、もっと知れる機会があるといいと思う。
- ・クラス的环境という狭い空間ではなく、園全体の環境に目を配っていききたいと思う。(教材室、図書室など) 保育計画も、お助けマンとして入ったクラスの保育方針や保育内容を共有していきたいと思った。
- ・計画書を読むとともに、その都度担任から内容を聞き園の理念に沿った保育を心掛ける。
- ・朝、登園してきて”今日は何があるかな” “何をして遊ぼうか” と期待を持てるよう環境構成は勿論、教材室にある保育材料を活かして製作遊びも取り入れていきたい。
- ・クラス分けをもっとしっかりと。年中組の玩具を増やしたらどうか。
- ・子ども達の興味や時期に合わせて環境や遊びを定期的に見直すようにしたい。
- ・補助として気付いた事をもっと積極的に担任に伝えたいと思う。

2. 保育の有り方・子どもへの対応（R7）

評価・反省

- ・子どもの怪我や体調について園長先生やクラス内の先生方と情報共有や把握を徹底し子どもが安全に過ごすことが出来るよう心掛けた。
- ・子どもを第一とした保育が出来た。
今年度は朝の戸外遊びの時間も取れていた。
3学期まで低学年、クラス、の交流が少なく感じた。
- ・子どもの年齢に応じた言葉の声掛けが不十分で伝わりにくさがあった。
個々の子どもに合わせてた声掛けより、全体での声掛けが多くなってしまっていた。
- ・登園時に“おはようスタンプ”を取り入れ、朝の子どもの健康状態を把握するよう努めた。
- ・子ども第一に考えることが出来た。
- ・一人ひとりの子どもと全力で向き合いその日、一日絶対にどの子ども心寄せ温かく豊かな関わりを持つことに努めた。
- ・戸外遊びの中でたくさん集団遊びや子ども達が楽しむことの出来る遊びをすることが出来た。
連携や共有も意識して実行したい
- ・他クラス、異年齢との交流をもう少し積極的に行うべきだった。
- ・年長、年中間の異年齢交流があまり十分に出来なかった。
- ・事務員として、他の保育者（職員の）バックアップに努めるよう努力した。

（お助けマン）

- ・子ども達をお預かりし、保護者様にきちんと引き渡すことが大事であり、その中でも安全に配慮することは特に重要。よい意味で常に危機管理の意識を持って行動した。
一人ひとりの子どもに対しても、愛情をもって接することが出来た。
- ・健康安全には常に留意し、気付いた事があつたらすぐ園長に報告している。
- ・複数のクラスに補助に入る事が増え各クラスの特徴を知ることができた半面、個々への対応が浅くなりがちであった。
- ・子ども達の遊びの様子、関わりを常に把握しようと心掛けた。
少しずつ人数が増えていくため、新入園の子がすぐに環境に慣れるよう見守り、子ども達の仲立ちをしようと意識した。
- ・子どもの気持ちを第一として、話をよく聞くようにした。
- ・子どもの体調の変化には常に気を配る事が出来た。
今年度は新しい遊具が完成し遊びが広がり、戸外で伸び伸び遊ぶことが出来た。
- ・子ども達にとって園が安心できる大好きな先生や友達がたくさんいる場となるように、一人ひとりの姿を受け止め、関わるように心掛ける。
- ・個々の子どもというよりは、全体的にたくさんの子どものと関わる事が出来た。

反省を基に来年度、改善・、実行すること

- ・子どもの年齢や発達に応じて、ゆっくり分かりやすい言葉で丁寧に話す。
- ・カリキュラム作成の際に、各学期に低学年、他クラスとの交流を今より多く入れられたら良いと感じた。

- ・より子どもに伝わりやすい言葉遊びや表現を心掛ける。
子ども一人ひとりと向き合い、その子の気持ちに寄り添い個々に応じた声掛けが出来るようにする。
- ・登園時の視診、触診を徹底し、怪我などに気付かないまま帰さないようにする。
外の行く前や帰って来てから人数確認をすることで、子どもの所在を把握する。
- ・引き続き子ども達の行動を見て気持ちを受け止め、子どもにとって模範的存在になる。
- ・情報共有の時間はしっかりと年間計画に入れ、園全体の全ての子ども達を理解し、どの子も受けとめ、その育ちに適切な保育に努めたい。
- ・設定された交流以外も戸外遊び中、ドッチボールやリレー、鬼ごっこを積極的に行ったり行事の練習風景を見せ合ったり時間がある日は交流をしたりする。
- ・異年齢交流が延期になってしまうことが多かったので、流れてしまわないよう計画を立てる。
- ・異年齢交流は、行事予定変更があまり十分な回数が行えなかった為、来年度は空き時間等有効活用し、更に交流を図っていきたい。
- ・「ちくちく言葉」を無意識に使っている子どもに対して、「～と言おうね」と柔らかい表現を伝え自分自身も子どもにも表現方法の幅を広げられるようにしたい。
- ・社会保険や雇用保険等、常に新しく変更、追加事項にアンテナを高くし、職員がより働きやすいよう努める。

(お助けマン)

- ・保育者間で様々なことを共有、連携（協力）していくことをより強めていき、一人ひとりの子ども達の理解や安全な園生活を送れるようにしていきたい。
- ・慣れ合いにならないよう節度を守って保育者間の協力連携を図っていきたい。
- ・どのクラスに入っても、一人ひとりに寄り添い安心してもらえるような関わり方を実践していく。
- ・戸外での遊びの際、危険個所を保育者間で確認することはできたが、改善策を話し合う場を設ける事が出来なかった。気づいたり発見後、改善策を話し合うことも出来たらよいと思った。
- ・フリーで動くため、そのクラスの雰囲気は早くつかむ」ようにした。
担任と色々話し合うことが一番。
- ・新しい遊具では危険が無いよう遊ぶ約束を徹底していく。
- ・来年度も安全に配慮しながら保育者同士の連携を密に、子ども達が生き生き過ごすことが出来るよう関わっていきたい。
- ・引き続きたくさんの子どもの積極的に関り、信頼関係を築いていきたい。

3. 保育者としての能力・良識・適正

(R7)

評価・反省

- ・保育者としての自覚を持ち、挨拶や健康管理、言葉、行動を意識することが出来た。
- ・教室の整理整頓及び清掃を、毎日行うことが出来た。
送り以外の保護者様と、もっと連絡帳等で様子を伝えた方が良かった。
- ・体調が万全ではない状態が長く続いてしまった。
他の意見を聞き、頼る事ばかりで自分から意見を出すことが少なかった。
- ・子どもの手の届いてしまう所に教材や書類を置いてしまうこともあり、整理整頓が不十分であった。
- ・書類の提出を過ぎてしまうことがあるので、一度心を引き締め臨みたい。
- ・今年度は私事で漠然とした不安があり心身のバランスが崩れてしまった。
しっかりと自分と向き合い、仕事に懸命に携わりたい。
- ・保育者として自分なりに様々な視点を意識して行動するよう気を付けた。
- ・自分のクラス、学年のことばかりに意識がいて、他のクラス、他の学年の職員と保育についてあまり話し合うことが無かった。
- ・どんな些細なことでも個人情報になるので守秘義務を厳守する。
職員間では皆とコミュニケーションをとり保育することが出来た。
- ・今年度、体調を何度も崩してしまい職場に迷惑をかけてしまった。
- ・保育者としての自覚、言動に相応しい行動が出来たか、今年度は学年、クラスの行事で余裕がなく後輩への指導、声がけが出来なかったように思う。
- ・事務員として、他の保育者（職員）のバックアップに努めるよう努力した。

(お助けマン)

- ・「保育者である」ということを忘れず、行動することが出来た。
プライベートでも自分自身を知っている方からすれば保育者であるため、そのことも理解して過ごせた。
- ・保育者としての心構えはしっかり持っているつもりである。
- ・体調を崩しがちで、保育に支障が出ないか不安があった。
- ・日々明るく元気に過ごすことができた。
- ・感染症の罹患者が多い時期には特に健康管理に努め、気を配った。
誰に対しても笑顔で挨拶することが出来た。
- ・職員同士でも来園された方にたいしても、常に明るく笑顔で心を掛けることが出来た。
- ・園内の清掃等は細かめにチェックし、気付いた時には行動出来ている。

(バス業務)

- ・健康には気を付けていますが、体調が悪く朝お休みすることがあり迷惑をかけました。
- ・朝の挨拶等、笑顔で対応している。
- ・明るく元気に！健康管理に気を付けた。
- ・健康管理に特に注意。

反省を基に来年度実行・改善すること

- ・提出物は、早目から取り掛かり、余裕をもって行う。
- ・電話や連絡帳を用いて子どもの些細な様子を都度伝えていくことが出来るよう心掛けた。
- ・体調を万全にし、健康でいられるよう、予防対策に努める。
他の意見を聞く中で、自分も意見を出し積極的に話し合いに参加出来るようにする。
- ・子ども達の登園前に不要なものは見えない所に置いたり、必要なものは定位置に置くなど環境を整えてから迎え入れる。
- ・やることリスト等を作り、忘れないようにする。
出来上がったものは、すぐ園長先生に提出する。
- ・日々の生活を私生活から整え、心豊かで常に自分に正直でありたい。
園の仕事に誇りと自信と感謝の気持ちを持ち、人として更に向上出来るように努める。
- ・互いに保育のアドバイスや子どもの様子等、些細なことでも伝え合える雰囲気を作る。
- ・改めて保育者である自覚を持ち、初心を忘れることなく子どもや保護者様と接すること。
- ・チームの一員、担任をしている立場として自分自身で健康管理を徹底し、欠勤せず体調万全にしていく。
- ・周りの動きをよく見て、人手が足りていない仕事、作業に対して積極的に参加していきたい。
- ・社会保険、雇用保険等、常に新しく変更、追加事項にアンテナを高くし、職員がより働きやすいよう努める。

(お助けマン)

- ・引きを続き保育者としての意識を忘れず、自覚を持った行動を心掛けたい。
また保育者同士も一つのチームとして保育に携わることが出来るようにしたい。
- ・自分を律すると共に、職員間でのコミュニケーションをこまめにとり、働きやすい環境にしていきたい。
- ・引き続き、健康管理に気を付けていく。
- ・園にあるものは、公共物であるということは常に認識をし、私用では使用しないということとは当たり前だと思う
オレンジエプロンのポケットが取れそうになることが多々あった為、常に身だしなみは意識していきたい。
- ・引き続き園内の物を私用で使用しない事と、大切に使用することは意識していく。
来園者には勿論、保護者様、子ども、職員にも常に笑顔で明るく接していくことを心掛けたい。
- ・フリーの先生達との会議があるといいのでは。
- ・引き続き健康管理に努める。腰を痛めないよう、体力作りもしていく。
- ・どの先生も明るく素敵な空気感の職場なので、自分自身もこの雰囲気を一緒に作り守っていききたい。
- ・正職員の目が行き届かない場所を整理、清掃を心掛けていきたい。

(バス業務)

- ・時間がなくても基本の手洗い、うがい、バスの消毒等、徹底して行いたいと思います。
責任感をもって行動し、みんなから信頼される職員であるよう心掛けたい。
- ・業務に支障がないよう、自己管理に意識。

4. 保護者への対応 (R7)

評価・反省

- ・保護者様と日々の送迎や連絡帳等で園の様子を話し伝えることが出来た。
- ・怪我等の連絡以外でも積極的に伝えていきたい。
ブログを活用し子ども達の様子を発信することが出来た。
- ・送迎の際にお会いした時や電話をかけ、要件を伝えた後、その子どもの様子を詳しく伝える事が出来たが、何を言ったか何で遊んだか具体的に伝えられる事が出来ないこともあった。
- ・伝達事項はメモ等に残し伝えるようにした。
保護者様への情報共有は、人により偏りがあったと感じる。
- ・電話や直接お会い出来た際には、保護者様にその日の子どもの様子を伝えるようにしている。
- ・子どもの姿、成長をノートや電話で伝えることにより、成長の喜びを共有出来、感謝の言葉をたくさんいただくことが出来た。
- ・一人ひとりの様子について保護者様にはできるだけ具体的に伝えるように心掛けている。
- ・ブログやインスタグラムを活用し、子ども達の園での様子を伝えられるよう心掛けている。
- ・個々の子どもの様子は、保護者様に伝え共有することが出来ていたが、クラスだよりやブログインスタグラムでのクラスの様子を発信することが少なかった。
- ・保護者様の立場になって子どもの様子や対応をすることが出来た。
学期末、行事で毎回おたよりを出せたが日常の発信があまり出来なかった。
- ・クラスだよりは殆ど出せず、手紙媒体での発信は少なかった。
その分、直接様子を伝える等、個々に対応した。
- ・保護者様には常に明るく接することを心掛けている。

(お助けマン)

- ・保護者様との関わりは、節度をもって接することが出来た。
保育者としての立場、保護者様の立場、それぞれを理解して対応した。
- ・直接保護者様との対応は少ないが、朝の受け入れ等でお会いする際には元気よく挨拶している。
- ・直接保護者様と関わることは少なかったが、担任や伝達ノートから個々の家庭の様子把握に努めた。
- ・SNS (インスタグラム) で園の様子を発信する際、個人情報に気を付け撮影することを心掛けた。
保護者様と毎日顔を合わせる事が出来る為、日々様子をお伝えする事が出来た。
- ・何かあった時は必ず保護者様に伝えている (預かり保育)。
- ・担当しているクラス、預かり保育では保護者様の様子や成長したことなど細かなことでも伝えられるよう配慮し信頼関係づくりに努めた。
- ・うめ組は直接保護者様にお会い出来る機会が多い為、子ども達の様子を常に把握しリアルタイムでお伝え出来るよう心掛けた。
- ・子どもの実態を分かっていないことがあるため、保護者様とお会いしても挨拶程度しか話せないことが多い。

反省を基に来年度実行・改善すること

- ・クラスだよりやインスタグラム、ブログ等、子どもの様子をより発信していく。
- ・子ども達の些細な成長を今以上に電話、連絡帳を活用し伝えていく。
- ・子どもの出来たことを伝える事に加えて、日常でのその子どもの素敵な行動や言葉、その日の遊んでいる様子など、幼稚園での生活の様子も伝え、保護者様の安心感に繋がるようにする。
- ・必要な情報だけでなく、普段の子どもの様子も連絡帳や直接会った時に積極的に伝えるようにする。
- ・もっとブログ、インスタを活用し、クラスのことを発信していきたい。
- ・SNSを充実させストーリーやショート、リールで常に発信していきたい。
- 保護者様には今年度同様、真摯に丁寧に関わる。
- ・微笑ましく思ったこと、感動したこと面白かったことなど、日常の些細なことも、ブログやインスタグラムを活用し、発信出来るようにしていきたい。
- ・インスタグラムも活用しながら、保護者様に子ども達の様子をこまめに伝えていきたい。
- ・活動をこまめに、発信していきたい。
- ・引き続き、園のイメージを損ねることのないよう努める。

(お助けマン)

- ・保護者様の思いをしっかり受け止めつつ信頼関係を築いていけるよう、関わり方やお互いの立場を尊重していきたい。
- ・保護者様と話すときは明るく謙虚に誠意ある対応を、これからも実践していきたい。
- ・園行事や送迎の際、なるべく声を掛け保護者様の顔を覚え信頼関係を築いていく。
- ・自分が補助で入っている子どもだけでなく、園の子ども全体を気にかけて保護者様にお伝えすることで信頼していただけるよう常に意識していきたい。
- ・クラス内でのことは担任が保護者様に伝えられると良いのでは。
- ・インスタグラムでは個人情報に細心の注意を払い、安心していただけるよう子ども達の様子を発信出来たらと思う。
- ・どの学年になっても、たくさん子どもと関わり、他の学年の保護者様との関係も築くことが出来るようにしたい。
- ・子どものちょっとした様子でも伝えるよう意識して、出来るだけたくさんの保護者様と話をし信頼関係を築いていきたい。

5. 地域の自然や社会との関わり

(R7)

評価・反省

- ・見学者や電話対応で、問い合わせについて自信をもって答えることが出来ず聞くこともあった。
- ・すすく教室や見学で来園された方々と積極的にコミュニケーションをとることが出来た。
- ・園への問い合わせに対して、その場ではっきり答えることが出来なかった。
- ・園見学や相談があった時に十分な受け答えが出来るほど、園の方針を理解しているとはいえない。
- ・見学者様の質問に全て正しい返答が出来ないと思う。
- ・地域の方に感謝し、見学にご来園される方とも謙虚に丁寧に接することが出来た。
- ・自分から挨拶や笑顔で対応することが出来た。
- ・すすく教室では、やった事のあるパネルシアターや手遊びを行うことが出来た。
- ・問い合わせに関してスムーズに対応することが出来るようになった。
- ・大体のことは答える事が出来たが、自分自身では分からない問合せもあり、不十分さを感じた。
- ・事務の先生や園長先生に確認をとりながら、問合せの対応をすることがある。
- ・地域の人へ迷惑をかけないように、園職員として配慮している。

(お助けマン)

- ・地域の方々と接することがあまりなかった。
- ・見学者や問い合わせの電話にも的確に対応出来るよう、必要な情報はすぐ見られるよう保存した。
- ・未就園の保護者様から問い合わせがあった際、すすく教室の案内だけでなく園見学についても対応するよう心掛けた。
- ・見学者の方々に挨拶を交わし、和やかに対応するように努めた。
- ・見学者、地域の方々、すすく教室で来園された方など、丁寧な挨拶と笑顔を中心掛けた明るい雰囲気作りを心掛けた。
- ・その日の各学年のスケジュールや先々の予定、すすく教室の内容等、すぐに答えることが出来るように把握に努める。
- ・園に対する問い合わせで、即答できない事がある。

反省を基に来年度実行・改善する事

- ・園の教材を活用したり調べたりし、新しいことに挑戦していきたい。
- ・園の方針や行事についての理解を深め、より正確に自信をもって答える。
- ・今後も電話や来園された方に対し、温かな対応をとれるよう心掛ける。
- ・園への問い合わせに答えられるよう、園の事を自分から調べたり聞いたりして知ることが出来るようにする。
- ・見学希望者への内容をメモに残したり、他の職員の対応の仕方を見て学ぶようにする。
- ・再度しおりを読み、全て理解し伝えられるようにする。
- ・すすすす教室が地域でも評価されるよう、新しい技術を学び実践する。
- ・園の教材を活用したり調べたりし、新しいことに挑戦したい。
- ・すすすす教室、転入希望の問い合わせでは、丁寧に対応し、名前や連絡先等、情報メモをし、園長先生に正確に伝える。、配慮を心掛ける。

(お助けマン)。

- ・園の魅力を発信できるような案を考え、皆と話し合い取り組んでいく。
- ・分からないことは調べてたり質問したりし、志都呂幼稚園の職員という自覚を更に持って対応の幅を増やす。
- ・園外の子とも関わることが多かったので、園のことや様々な問合せに答えられるよう準備していたが、足りないところも多かった。
- ・通勤時や園外保育、年長児による地域ふれあい行事等、機会をみてコミュニケーションを図っていきたい。
- ・相手の要件を的確に聞き取り、担当者に引継ぐ。
- ・預かり保育の料金について1号2号など料金形態について十分理解をしていないため、答えられるようにしたい（新入園児への対応も含め）。
- ・散歩が少なく感じました（季節の花、地域の人々との触れ合いが欲しい）。
- ・急な問合せや質問にも、すぐ対応していきたい。
- ・電話にて問い合わせがあった時にある程度は答えられるようにしているが、把握しきれない内容があると思う。
- ・引き続き問い合わせには、しっかり上司に確認したうえで受け答えしていく。

6. 研修と研究(R7年度)

評価・反省

- ・自ら研修に参加する等、保育を学ぶ姿勢の積極性に欠けていた。
公開保育を実施出来なかった。
- ・園のエプロンシアターやパネルシアターなどを利用する機会が少なかった。
CDカセットが使えない時は、自身で歌うなど工夫出来ると良かった。
多くの研修を受けることが出来、学びが多かった。
関わり方や声掛けの工夫など、実践、反省、また実践と繰り返し行えると良かった。
- ・今年はパネルシアターなど、園の教材を活用することが少なかった。
自身の該当する研修には、前向きな姿勢で参加した。
- ・公開保育が出来なかった。情報共有を行うことが出来ている。
- ・ZOOMや配信で研修を受けたが、気が散ったり眠くなったり実際に研修を聞くのとは違い反省した。
- ・研修にはなかなか参加できなかったが、研修報告を通して意識したり、知識を増やすことが出来たと思う。
- ・園にあるが使っていない教材が多数ある。
- ・紙芝居やおはなしタペストリーなど、園の教材を使って保育することが多くあった。
しかし自ら専門書など読むことが無かった。
- ・目の前のことに精一杯になってしまった時があり、研修等で学んだ内容や教材を活かせない場面もあった。
- ・すすく教室等でウォールシアターやエプロンシアターなど、まだやった事の無い教材を活用することが出来た。
- ・引き続き研修には積極的に参加することが出来た。
新たな学びも多く、保育に活かせることを聞くことが出来た。
- ・夏休みを使っていくつかの研修に参加させていただくことが出来た。

(お助けマン)

- ・浜松市私立幼稚園協会の研修や絵本研修に参加させていただいて、大変勉強になった。
- ・夏の研修では、絵本や音楽の本質、最近の流れについて学び、考え方の更新をする機会となった。
園内では継続的な研修で、アレルギーや危機管理について理解を深められた。
- ・研修に参加することは出来たが、保育の参考書や教材を活用したり読んだりすることが出来た。
- ・園内研修など、積極的に参加した。
- ・夏休み期間のオンライン研修では、今まで学んだことのない視点から多くの学びを得ることが出来た。
- ・教材室にある紙芝居やとびだす絵本等、活用するようにしている。
今年度は家族の体調不良で、夏の研修に殆ど参加することが出来なかった。

反省を基に来年度実行・改善すること

- ・夏休み等の研修を積極的に受ける。
自身の保育を見直すことが出来る機会を作る。
- ・研修に積極的に参加するだけでなく学んだことを保育計画の中に取り入れ、実践と反省を繰り返して自身自身の強みにしていけるようにする。
- ・長期休みなどを活用して、教材研究を行う。
新しい絵本も積極的に読み、子どもに合った絵本を読み聞かせられるようにする。
- ・公開保育が出来なかったら、全体で話し合うなど新しい案を出し進めていく。
- ・研修には現地に行って参加を希望し実際の講座を真剣に受けることで、保育の質を向上させる。
- ・園の教材をもっと積極的に活用し、子ども達が様々なもの、ことに触れ楽しめるようにしたい。
- ・研修に参加したり専門書を読んだり公開保育を行ったりと様々な視点の保育を研究し、豊かな保育に繋げていく。
- ・自己の仕事に余裕を持ち、常に学んだことを保育に取り入れながら園の教材をフルに活かす。
- ・新しい教材ややったことが無いものを今後も活用したい。

(お助けマン)

- ・研修は出来る範囲で(オンデマンド)参加することが出来た。
新たな学びも多く、保育に活かせることを聞くことが。
- ・引き続き研修には積極的に参加することが出来た。
新たな学びも多く、保育に活かせることを聞くことが出来た。。
- ・引き続き研修には積極的に参加したい。
参加するだけでなく、学んだことを保育に活かすことが大切。
- ・研修で学んだことを、日々保育の中でも実践していきたい。
- ・AEDやアレルギー対応など、繰り返し研修することで身につけていく。
- ・研修に積極的に参加することは勿論、参考書や教材を活用し常に新しいことを取り入れようとする姿勢をもっていく。
- ・研修で学んだことを取り入れるようにする。
- ・自分から勉強し、向上する気持ちを忘れず学んだことは日々の保育で活かせるよう努力していきたい。
- ・まだ使用していないパネルシアターもある為、活用していきたい。
- ・日々保育は進化しているので、今後も長期休みを利用して勉強させて頂きたい。

安全な運転・業務について

評価・反省

- ・朝、乗車してきたときにヘルメットで顔がよく見えない所があり、傷に気が付かない時があり反省しました。
- ・一年安全に運行出来た。
- ・子どもの傷に気付かず、保護者様への確認も出来ずはつきりと報告も出来ない時があった。
- ・先を予測し他車の動き、歩行者等に注意する。

周囲の安全確認と譲り合いに心掛ける。

反省を基に来年度実行・改善すること

- ・乗車の時、顔全体が見えなかったら乗ってからもヘルメットをあげたりして確認をしようと思います。
- ・しっかりと子どもの顔を見て挨拶をし、子どもの様子を確認する。
いつ起こるかわからない災害への対応など、子ども達を守りどう行動するかを勉強していきたい。
- ・車内の子ども達の動きに注意。
感染症予防の為の車内の清掃と消毒。